

たまボラ



～しゃきょうのたまちゃんがお伝えする東大和のボランティア情報紙～

発行: 東大和市社会福祉協議会 所在地: 東大和市中央3-912-3 電話: 042-564-0012(代表)

夏! 体験ボランティア



～ この夏 一歩ふみだす! ～ ※東大和南高校での防災教育中の写真

今年も7・8月を中心に「夏! 体験ボランティア」を行います。夏休み等を利用して、市内の福祉施設などでボランティア活動を体験してみようというものです。社会人の方の参加も大歓迎です。ボランティア活動に関心のある方、ボランティア活動を体験してみたい方は、ぜひこの機会にご参加ください。

また今年も東大和南高校で防災教育に合わせて、夏ボラの説明会を行いました! 若さ溢れるパワーをボランティアに活かしていただきたいです。



詳細はP 2 をご覧ください。

夏ボラはこんな活動！

📌 保育園で ～ 子どもたちが皆さんを待っています！ ～



夏ボラで毎年一番人気は保育園での活動です。保育園では先生たちと一緒に子どもたちの保育を体験できます。

子どもたちのあそびやごはんのお世話、絵本の読み聞かせ、プールあそびのお手伝いなど、楽しく充実した体験をすることが出来ます。

将来、保育士になりたい人や関心がある人には、特におすすめです！



📌 高齢者施設で ～ 初めてでも参加しやすい！ ～

高齢者が生活する老人ホームやグループホーム、家から通って支援を受けるデイサービスなどがあります。レクリエーション、配膳、外出のお手伝いなどいろいろな活動ができます。

皆さんが参加することで施設に外からの風が入ります。「施設に行くだけ」でも役に立っています。初めての方にもおすすめの分野です！



📌 障害者施設で..

障害のある方が様々なおしごと（作業）をするのをお手伝いしたり、レクリエーションやスポーツのメニューもあります。

📌 児童館で..

児童館でもボランティアを募集します。昔、自分や家族が利用した児童館で、楽しみながら活動してみてもいいのでは？

※その他、いろいろなメニューがあります。詳しくはホームページをご覧ください。

※参加する場合、必ずいずれかのオリエンテーションにご参加ください。

【日程】① 7 / 22 (土) 13:30、② 7 / 25 (火) 10:00、③ 7 / 25 (火) 18:30

④ 7 / 26 (水) 13:30

【会場】社会福祉協議会会議室

※上記日程で都合が悪い場合、ご相談ください。

シリーズ きらっ!!ボランティア

手芸グループ代表 中村君江さん

Vol.8

今回は、手芸グループの代表である中村さんにお話を伺いました。
ボランティア歴は、なんと30年以上！現在働いている職員のだれよりも長く社会福祉協議会に関わっていただいております。長く活動をしている中村さんのお話にご注目ください。



【ボランティアを始めたきっかけは】

一番下の子どもに手がかからなくなり、時間が出来たので、友達と一緒に福祉ボランティア講座を受けたのがきっかけでした。講座の中でボランティアグループの紹介があり、手芸なら自分でも出来ると思い、手芸グループに昭和57年に加入し、昭和63年に代表になりました。

手芸ボランティア以外には、昔あった給食ボランティアを行っていました。給食ボランティアは、それぞれの地域にある拠点に行って弁当を受けとり高齢者に配布する活動です。事業開始当初から参加し、介護保険制度が出来たことをきっかけにボランティア配食が終了となるまで続けていました。その後はボランティア会に加入し、買い物の付き添いやお花見への同行も行ってきました。

【手芸ボランティアの活動内容は】

福祉祭で販売する作品作りをしています。福祉祭で販売した売り上げは社協に寄付しています。手元にある材料をもとにみんなで話し合い作る作品を決めています。グループは主婦の方が多く、活動への参加が楽しみとおっしゃってくださいます。昔は布団の寄付があり、布団をみんなで解体し、座布団に作りなおす作業などもしていました。

【活動を続ける秘訣はありますか】

特にはないですが、重いことを考えないで、自然体でいることが活動を続けられている理由かもしれません。約30年間活動を続けていますが、休んだのは5回くらいです。月曜日は手芸というのが身についています。

代表の仕事も、「代表だから頑張らないと」という気持ちはなく、みんなが楽しく続けてほしいという気持ちでやっています。そのおかげか、手芸グループは初めて参加された方もすぐに打ち解けられてお話しができるよう



手芸グループの作品

です。高齢者の方が多いので、家でこもっているよりは手芸グループに来てもらい、色々な人たちとおしゃべりをしながら作業をして楽しんでもらいたいと思っています。

【ボランティアの魅力とは】

少しでも役に立っていることを実感できるのが魅力だと思います。福祉祭で販売し売り上げを社協に寄付することで、目には見えませんが何か役に立っているんだなと感じます。

他には、新しい仲間ができることも魅力だと思います。



手芸グループの活動風景

【これからについて】

このまま自然体で、なるべく続けていきたいと思います。

私の住んでいる地域は、最近ではめずらしく近所付き合いがあります。私が幹事になり新年会を開いたりもしていました。近所付き合いがあるおかげで、ご近所の一人暮らしの高齢者を気にかけるようになりました。自治会の役員にもなったので、そういった地域での活動もしていけたらいいですね。



社協やグループ活動の昔話を聞き、30年以上も1つのボランティア活動を続けていることは、すごいことだと改めて実感しました。

活動を続ける秘訣として教えていただいた、「自然体」で参加できる活動をセンターからも多くの方々にご紹介していきたいと思います。皆さんがボランティア活動を長く続けられるように支援体制を推進していきたいと思っています。



東大和ボランティア・市民活動センター運営委員会

7月より、東大和ボランティア・市民活動センターでは運営委員会を設置することになりました。運営委員会では、センター事業の見直しや新たな取り組みを考えて、東大和のボランティア・市民活動の活性化に向けて取り組んでいきます。

また、運営委員会に幅広い分野の方に参加していただくことで、新たな視点の気づきやつながりを築いていきたいと考えております。具体的には、ボランティアグループや企業及び農商工関係者、福祉施設、学校関係者の方など委員として参加していただきます。

今後の運営委員会の活動にぜひご注目ください！！



運営委員会の設置に向けた、設置準備会の様子です。準備会ですが積極的な意見交換が行われていました！



です。高齢者の方が多いので、家でこもっているよりは手芸グループに来てもらい、色々な人たちとおしゃべりをしながら作業をして楽しんでもらいたいと思っています。

【ボランティアの魅力とは】

少しでも役に立っていることを実感できるのが魅力だと思います。福祉祭で販売し売り上げを社協に寄付することで、目には見えませんが何か役に立っているんだなと感じます。

他には、新しい仲間ができることも魅力だと思います。



手芸グループの活動風景

【これからについて】

このまま自然体で、なるべく続けていきたいと思います。

私の住んでいる地域は、最近ではめずらしく近所付き合いがあります。私が幹事になり新年会を開いたりもしていました。近所付き合いがあるおかげで、ご近所の一人暮らしの高齢者を気にかけるようになりました。自治会の役員にもなったので、そういった地域での活動もしていけたらいいですね。



社協やグループ活動の昔話を聞き、30年以上も1つのボランティア活動を続けていることは、すごいことだと改めて実感しました。

活動を続ける秘訣として教えていただいた、「自然体」で参加できる活動をセンターからも多くの方々にご紹介していきたいと思います。皆さんがボランティア活動を長く続けられるように支援体制を推進していきたいと思っています。



東大和ボランティア・市民活動センター運営委員会

7月より、東大和ボランティア・市民活動センターでは運営委員会を設置することになりました。運営委員会では、センター事業の見直しや新たな取り組みを考えて、東大和のボランティア・市民活動の活性化に向けて取り組んでいきます。

また、運営委員会に幅広い分野の方に参加していただくことで、新たな視点の気づきやつながりを築いていきたいと考えております。具体的には、ボランティアグループや企業及び農商工関係者、福祉施設、学校関係者の方など委員として参加していただきます。

今後の運営委員会の活動にぜひご注目ください！！



運営委員会の設置に向けた、設置準備会の様子です。準備会ですが積極的な意見交換が行われていました！



ボランティア募集中！

市内の情報

新規

高齢者施設でのボランティア

高齢

合唱や演奏、踊り、人形劇などのレクリエーションのお手伝いや、ドライバーかけ、傾聴のボランティア。

◆日程 14:00～15:00の間で、都合の良い時に短時間でもOK
不定期でもOK

◆場所 東大和市清原4-6-4

◆問合せ ツクイ東大和
042-567-6537
担当：佐野・内野

新規

高齢者施設でレクリエーションのお手伝いをするボランティア

高齢

合唱や演奏、マジックのなどのお手伝いを
していただくボランティア

◆日程 10:00～11:00
14:00～15:00
都合の良い曜日をお願いします。

◆場所 東大和市清水6-1250

◆問合せ 東大和ショートステイそよ風
TEL 042-590-4165
担当 田口

再掲

高齢者施設でのボランティア

高齢

テキストを使用し、学校形式で1コマ30分の先生役として指導をしてくれるボランティアを募集！指導用のテキスト（簡単な計算ドリルのような内容）があるので、その通りに進めてもいいし、アドリブで進めても大丈夫です。

慣れたら、自分の特技や趣味を活かした内容で授業をやってみませんか。空いてる時間は、シーツ交換や利用者さんのお話相手などお願いします。

◆日程：月～金 9:30～16:45の間で、都合の良い日時で大丈夫です。

◆場所：狭山4-1483-3

◆問合せ：042-561-4165

あずみ苑 担当：坂本・黒田

新規

高齢者施設での傾聴ボランティア

高齢

個室で1対1でも、ホールで大人数でのお話し相手でも構いません。

◆日程 週1回 14:00～15:00
※都合の良い曜日をお願いします。

◆場所 東大和市清水6-1105-1

◆問合せ プラチナシニアホーム東大和
TEL 042-516-1521
担当 松沢

～ 市外の情報 ～

再掲

児童養護施設の入所児童にピアノや勉強を教えてくれるボランティア

子ども

入所児童にピアノや勉強を教えるボランティア
※勉強を教えるのは中高生が対象です。

◆日程 応相談

◆場所 東大和市芋窪5-1161-3

◆問合せ 社会福祉法人蓮華苑
児童養護施設れんげ学園
Tel042-565-8451
担当 西元



再掲

障害者施設での車いす介助や趣味や特技を活かしたボランティア

障害

散歩時の車椅子介助やダンス・演奏など趣味や特技を活かしたボランティア

◆日程 月～土 10:00～11:30
13:00～15:00

月に1～2回 午前又は午後の1時間位

◆場所 小平市小川町1-485 黎明寮

◆問合せ 黎明寮042-341-0336
担当 佐々木・小野・持田

◆その他 黎明寮は、身体や精神に障害がある方が生活する施設です。継続的に、特技や趣味を活かした活動ができる方をお待ちしています。

ほらセンからのお知らせ



●点訳ボランティア養成講座 受講生募集

日本盲人会連合点字図書館では、点訳に関する基本的な知識や技術を学んでいただくための点訳ボランティア養成講座を開催することになりました。皆さまのご参加をお待ちしております。

◆日時

- ・前期（全13回） 2017年9月1日～12月8日
 - ・後期（全5回） 2018年1月12日～3月9日
- ※全18回 原則金曜日 10時～12時

◆対象者

- ・初心者の方、または、経験者の場合は現在点訳活動をしていない方
- ・パソコンの基本操作ができる方
- ・修了後、当館のボランティアとして点訳（主に 医学書）を定期的に来れる方

◆講習会場

日本盲人福祉センター研修室
（新宿区西早稲田2-18-2）



◆受講料

無料（ただし、テキスト代と教材費は実費負担）

◆定員

20名程度

◆備考

原則として毎回課題提出があります。

◆申込締切

7月31日（月）当日の消印有効

【受講申し込み】

社会福祉法人日本盲人会連合点字図書館

電話 03-3200-6160

FAX 03-3200-7755

※詳細はホームページで

●ききマネ講座

「今日からできる！ ききマネ式 寄付の募り方」

みなさんの団体では「寄付」を募っていますか？

NPO・ボランティアグループにとって、市民や企業からの受け取る「寄付」は、活動の支えになるとしても大切な存在です。一方で「なかなか寄付が集まらない」「募り方がわからない」というお悩みをもつ団体も少なくありません。

今回のききマネ講座は、寄付がテーマ。「今日からできる！」寄付の募り方をお伝えします。

日時：2017年8月30日（水） 18時30分～21時

会場：東京ボランティア・市民活動センター

東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ10階

【問合せ・申込み】

東京ボランティア・市民活動センター

TEL: 03-3235-1171 FAX: 03-3235-0050

※詳細はホームページで



編集部から

今年も夏ボラの季節がやってきました。この事業、「青少年がボランティア活動を体験することにより、様々な社会的問題への関心を深め、地域社会を構成する一市民として積極的に社会づくりに参加することの意義を学ぶ。また、様々な人との出会いの中から多様な価値観にふれ、同じ地域で共に生きていくことについて考え・・・（略）。」と壮大な目的を掲げています。

夏ボラはボランティアの入口とってはいますが、実際にその後ボランティアを継続するケースはまれで、その時限りとなってしまうことが多いのが現実です。そのような状況を懸念するボラセンスタッフも多くいます。

しかし、夏休みにたった1回のボランティアをしてみることで、それは無意味なことでしょうか？社会に出てから、高齢者や子どもたち、心身が不自由な方々とふれあうとき、そのたった1回があることで、関わろうとする勇気を後押ししてくれるのではないかと思います。大人になり、自分自身が社会へ目を向けるようになったとき、この夏の体験が、きっと将来のボランティア参加への動機の一つになってくれると思います。ボランティアの1歩を踏み出した参加者たち、2歩目は何十年後かもしれません。夏ボラはいわば「種をまく」ようなもの。参加者の心にまいたボランティアの種が、数年後、数十年後に必ず花開くことを願い、今年もセンターでは参加希望者を迎えます。



浅見